

い ず じょうやま 川の駅「伊豆城山」 における地域活性化について

真喜 匠¹

¹中部地方整備局 沼津河川国道事務所 流域治水課（〒410-8567 沼津市下香貫外原 3244-2）

伊豆の国市に「かわまちづくり支援制度」で整備した川の駅「伊豆城山」が2023年10月1日にオープンした。この川の駅は、2019年にオープンした川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」に続く、狩野川流域では2地区目として「かわまちづくり計画」に登録されたもので、国・県・市及び指定管理者である民間事業者との連携により、豊かで美しい『かわ』と、人々がにぎわう『まち』を体験するための様々なスタイルを提供することで、地域活性化への貢献や有効的な水辺空間利用を図ることを目指している。その取り組みについて紹介する。

キーワード 川の駅「伊豆城山」 かわまちづくり 水辺空間

1. かわまちづくり計画の概要

(1) 狩野川神島地区かわまちづくり計画策定の経緯

狩野川中流域の伊豆の国市に位置する狩野川神島地区の水辺空間は、市民や来訪者による散策、ランニング、サイクリングなどの水辺空間の利活用ポテンシャルを有しているとともに、道の駅「伊豆のへそ」から近く、ジオポイントである「城山」を目前にすることから、水辺空間のさらなる利活用を図りたいとの機運が高まっていた。このような地域の実状を踏まえ、「かわまちづくり支援制度」を活用することで、広い公共空間を活用した観光客の滞在スポットを整備し、通過型から滞在型、個人型から家族型への転換による市内観光への波及効果を生むことが期待された。

このため、狩野川神島地区における「かわまちづくり計画」の登録を目指し、地域住民・団体、伊豆の国市、静岡県、沼津河川国道事務所からなる「伊豆の国市かわまちづくり協議会」を2019（平成31）年2月1日に設立した。本協議会では、かわまちづくりの整備メニューや利活用メニューを検討するための下部組織として作業部会（WG）を設け、国・県・市、地域住民・団体、民間事業者等が意見を出し合い、地域の課題解決やニーズを踏まえた「かわまちづくり計画」を策定した。



図-1 狩野川神島地区にあるジオポイント「城山」



図-2 かわまちづくり計画整備イメージ図

策定した「かわまちづくり計画」は、神島地区の河川空間に「多目的広場」「芝生広場」「親水護岸」等を整備することで、地元住民の水辺利用の拠点とするとともに、

サイクリスト等の来訪者も水辺利用や休憩の場所として滞在できる空間とすることで、これまで『通過型』であった市内観光に対して、滞在拠点となりうる計画とした。

また、計画検討段階から民間事業者の参画を図ったことで、隣接する道の駅において世界最大級のスポーツサイクル展示施設を運営する自転車メーカーから「広い河川敷空間に自分たちの手づくりで自転車のオフロードコースをつくってみたい」との提案があげられた。これを受け、速やかに協議会にて検討を行い、かわまちづくり整備候補地区を「都市・地域再生等区域」に指定することで、自転車メーカーによるオフロードコースづくりを、当地のかわまちづくり計画に盛り込むこととした。

このような経緯を経て、2020年3月に狩野川流域において2地区目のかわまちづくり計画登録を果たした。

(2) かわまちづくり整備・運営に向けた Park-PFI の活用

かわまちづくり計画登録後は「伊豆の国市狩野川利活用調整協議会」を設立し、整備後の適切な利活用に向けた検討を進めた。利活用協議会では、河川区域といった広い公共空間の活用は、民間事業者にとっても魅力的であり、民間活力による観光振興が期待できるものと考え、Park-PFI 制度（都市公園において飲食店、売店等の公募対象公園施設（＝民間の収益施設）の設置と、広場や園路等の特定公園施設（＝公園施設）の整備・改修を一体的に行う民間事業者を、公募により選定する制度）を活用することとした。Park-PFI 制度の実現に向けては、伊豆の国市都市計画課が中心となり、民間事業者へのサウンディング型市場調査や神島地区の現況水辺空間での実証実験を重ね、芝生や水はけの良いグラウンドの整備、砂ぼこりへの懸念から道の舗装の必要性等の意見が得られた。これらによる民間事業者からの提案や実証実験への入り込み状況及びアンケート結果から、Park-PFI 制度の有効性と実現性を検証した上で、官民連携による施設整備及び維持管理の枠組みを定めた。

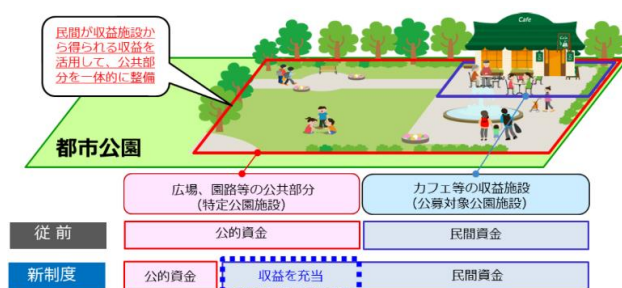


図-3 Park-PFI 制度の概念¹⁾

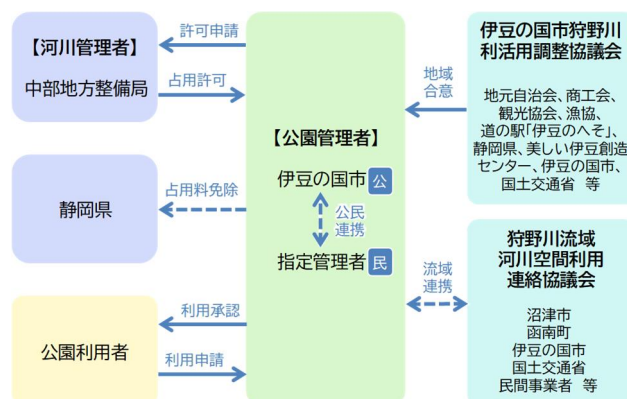


図-4 かわまちづくり整備後の利活用及び維持管理の枠組み²⁾

2. 川の駅「伊豆城山」の地域への貢献

(1) 川の駅「伊豆城山」のオープン

官民連携によって計画策定、整備が進められてきた狩野川神島地区のかわまちづくりは、公募によって名付けられた『川の駅「伊豆城山」』として、2023年10月1日にオープンした。

オープン時には、記念式典に加え、指定管理者である民間事業者が企画した様々なイベントが催され、多くの市民や観光客が来訪する盛況をみせた。



図-5 オープニングイベントの様子

(2) 川の駅「伊豆城山」により期待される地域活性化

川の駅「伊豆城山」では、豊かで美しい『かわ』と、人々がにぎわう『まち』を体験するための様々なスタイルを提供することをコンセプトとして、芝生広場・多目的広場が整備された公園区域において、ドッグランやおもしろ自転車、キャンプ・バーベキュー、キッチンカーなど、魅力ある多様なコンテンツを指定管理者が提供している。また、自転車オフロードコースでは、野趣ある地形を生かしたオフロード自転車競技会やスポーツサイクルの展示会の場などとして活用されている。



図-6 整備後の川の駅「伊豆城山」



図-7 水辺空間を有効活用した様々なコンテンツの提供



図-8 ドッグラン



図-9 おもしろ自転車体験



図-10 キッチンカー

さらに、河川空間はカヌー・SUP、釣り、ヤナ漁体験などの水面利用、環境学習の場としての活用や、伝統行事であり、狩野川の水霊を鎮め水害から村を守り、水難者を供養するための盆の行事である「かわかんじょう」などで地域でも活用されている。



図-11 かわかんじょう³

川の駅「伊豆城山」は、水辺空間を有効活用したこのような魅力的なコンテンツを官民の連携によって提供し続けることで、伊豆の国市民のみならず、市外や県外の

方々にも愛される川の駅として、伊豆半島全体を盛り上げる新しい「プラットフォーム」になることが期待されている。

(3) 利用者の声

川の駅「伊豆城山」オープン時に行った来訪者アンケートでは、多くの項目で「満足」あるいは「やや満足」が半数以上を占める結果であった。一方で「トイレや水飲み場の利用」「川の駅内の標識などの案内のわかりやすさ」について、不満意見もあげられていることから、今後、さらなる改善の余地もある。

また、同アンケートによる川の駅「伊豆城山」に期待する役割としては、「住まいの近くや街中にある身近な場所」「子どもの遊び空間」「運動・スポーツ・健康づくりの場」としてのニーズが多いことから、これらのようなニーズを踏まえたコンテンツを今後も積極的に提供していくことが重要である。

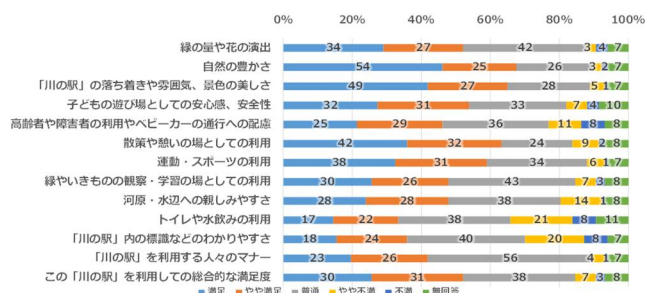


図-13 川の駅「伊豆城山」の満足度

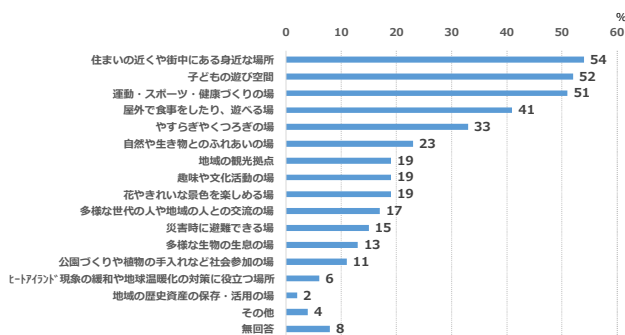


図-14 川の駅「伊豆城山」に期待する役割

3. 今後の展望

(1) 狩野川の水辺拠点連携による広域地域への貢献

狩野川には、2014年から河川空間のオープン化に取り組んでいる沼津市上土地区の「かのがわ風のテラス」、同じく「かわまちづくり支援制度」により2018年に函南町

塚本地区にオープンした川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」があり、今回オープンした川の駅「伊豆城山」を加え、3箇所の水辺拠点が整備されたことになる。

今後は、この水辺3拠点を有機的に相互連携を図っていくことで、狩野川を軸とした水辺利用、サイクリング、周遊観光などによって、伊豆地域のさらなる広域な地域貢献に繋げて行きたい。



図-15 狩野川の水辺3拠点の相互・広域連携

(2) 道路整備によるさらなる飛躍

当事務所では、「伊豆縦貫自動車道」の整備により「早い交通」の環境を構築するとともに、今後「遅い交通」を楽しむ時間・空間のゆとりを創出していく予定である。

伊豆縦貫自動車道は、静岡県沼津市を起点とし下田市に至る延長約60kmの一般国道の自動車専用道路である。本自動車道は、国土の主軸上に位置する沼津市や三島市を伊豆地域と東名及び新東名高速道路と連携することにより高速交通体系から取り残された伊豆地方へ高速サービスを提供し、海・山などの自然環境や温泉など観光資源に恵まれた伊豆地域の発展に大きな役割を果たすとともに、伊豆地域の交通混雑の緩和を図り、快適な観光の実現や安心して生活できる環境の実現などが期待される。



図-16 今後の伊豆縦貫自動車道の整備

伊豆縦貫自動車道の整備と水辺3拠点の連携や、多くの道の駅等との連携を図っていくことで、伊豆の国市のみならず、伊豆半島全体の地域活性化への波及を目指していく。

現在の走行環境

「早い交通」と「遅い交通」が混在することで、双方にとってストレス



多様な交通モードの構築



移動時間の短縮により、
楽しむ時間の確保



一般道の自動車交通量の転換により、
サイクリストの安全で快適な走行空間の確保



図-17 伊豆縦貫自動車道の整備による交通対策イメージ

4. まとめ

今回報告した川の駅「伊豆城山」は狩野川流域で2地区目のオープンとなった川の駅であり、Park-PFI 制度も活用している。豊かで美しい『かわ』と人々がにぎわう『まち』を体験するための様々なスタイルを提供することをコンセプトとして、整備された公園区域において魅力ある多様なコンテンツを指定管理者が提供している。

オープン以降、利用者から多くの項目で「満足」あるいは「やや満足」が半数以上を占めている。一方で、不満意見も挙げられていることから、今後さらなる改善の余地がある。

河川空間には当地の伝統行事である「かわかんじょう」やカヌー・SUPなどの水面利用、環境学習の場としての活用も図られている。

今後さらなる活性化を図るため、下流にある「伊豆ゲートウェイ函南」「かのがわ風のテラス」との川を中心とした連携、多くの道の駅との連携等、より質の良い水辺空間の創出に努めていく。

謝辞：本論文を作成するにあたり、沼津河川国道事務所の職員の方をはじめ、株式会社建設環境研究所様等、各種ご助言を頂きました関係者の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

参考文献

1) 都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン (令和5年3月31日改訂版, 国土交通省都市局公園緑地・景観課)

<https://www.mlit.go.jp/toshi/park/content/001616038.pdf>

2) 河川空間のオープン化活用事例集 (令和5年8月, 国土交通省水管理・国土保全局)

[jirei_kasenkukan_2308.pdf \(mlit.go.jp\)](https://www.mlit.go.jp/jirei_kasenkukan_2308.pdf)

3) フォトニュース (令和4年8月, 伊豆の国市)

<https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/shisei/kouhou/photo-news/2022kawakanjo.html>